

13.04.28~04.30 屋久島山行報告書

M3 荒川 晶

①参加メンバー(敬称略)

M4 千葉 岡本 M3 荒川 M2 田中

②コースタイム

1日目 4月28日(日)

鹿児島港 10:20~13:00 安房港 13:31~14:32 紀元杉バス停

紀元杉バス停 15:10~淀川入口 15:40~淀川小屋 16:20(幕営)

行動時間：1時間

2日目(4月29日(月))

淀川小屋 05:45~07:15 花之江河 07:25~08:05 黒味岳 08:25~投石平 09:35~11:30 宮之浦岳 12:20~12:40 焼野三叉路(荷物をデポ)~13:30 永田岳 13:45~焼野三叉路 14:30~(1時間20分)~15:40 第二展望台 15:45~16:50 新高塚小屋(幕営)

行動時間：11時間

3日目(4月30日(火))

新高塚小屋 06:00~高塚小屋 06:50~06:55 縄文杉 07:05~08:20 ウィルソン株付近 08:30~09:05 大株歩道入口 09:15~10:00 楠川分れ 10:15~辻峠 11:10~11:25 太鼓岩 11:30~白谷山荘 12:20~白谷雲水峡 13:05

行動時間：7時間

③概要

以前より構想のあった屋久島山行を、今回のゴールデンウィーク期間に実施することが出来た。メンバーの日程なども考え、初日に標高のより高い淀川登山口より入山し、最高峰の宮之浦岳・永田岳を縦走、その上で縄文杉も観察できるプランを選択した。宿泊できる小屋の配置上、2日目の行動時間がどうしても長くなってしまい、また最終日に雨がちになったことが残念であったが、世界遺産にも登録されている屋久島の表街道を満喫することが出来た。

④報告書本文

<1日目>

宮崎に実家のある M2 田中以外は早朝の羽田空港で集合、始発の JAL 鹿児島行きで鹿児島へ。この日は天気が良く、冠雪した富士山や南アルプス・中央アルプス・八ヶ岳・御嶽山を一望することが出来て気持ちの良いスタ



ート。(右写真)

空港到着後鹿児島港まで移動しここで田中が合流。

高速船に乗り換えて屋久島まで3時間ほど揺られて安房港へ到着。途中は開聞岳や佐多岬、また寄港した種子島などを眺めが綺麗であったが、屋久島が近づくにつれて、連なる山容に圧倒されながらの船旅であった。

ここからさらに紀元杉に至るバスに乘換え、揺られること1時間ほどで標高を1100mほど稼いで、ヤクスギランドから下山してくる車と多く行き違った。

到着後はしばし紀元杉を鑑賞。本土には見られないその圧倒的な存在感と生命力を感じ、一般の観光客も多い



中でしばし見とれてしまった。

バスに乗っていた登山客と共に淀川入口を目指して林道を歩き始める。途中には川上杉と呼ばれる巨木が立っており、これも存在感は大きかった。

淀川入口からは登山道に入り、緩やかなアップダウンのある道を小一時間ほどかけて今晚の宿泊地の淀川小屋に到着。道は淀川入口から宮之浦岳まで日帰りできることもあってか、比較的よく踏み込まれていたように思う。



テント場は既に殆ど埋まっていたが、周囲に幸運にも平坦地を見つめることが出来たので、そこにテントを張ることにした。小屋は20~30人程度が宿泊できるほどの広さで、実際の利用客は10~15人ほどだったのではないだろうか。水場は付近の川の水を汲むものだった。

夕食はシチューを作り、2月の北八ヶ岳山行の時と同様、十分すぎるぐらいのボリュームとなった。

初日は殆ど移動日であったが、翌日の長時間の行動に備えて20:00頃には就寝。

<2日目>

3時半に起床し、朝食やテントの片づけをして出発は05:40となった。やはり首都圏よりも日の出日の入りが1時間ほど遅いのを実感する。出発後は直ぐに小さな沢を渡り、樹林帯の中、花ノ江河を目指して歩む。昨日は紀元杉や川上杉など、名前のついた巨木を眺めたが、それ以外にも樹齢千年は越えているのではないかなと思われるような巨木をあちこちに見ながら歩く。基本的に眺望はないのだが、途中高盤岳や、さらには山並みの向こうに



海をも眺めることの出来る展望台もあり、屋久島の山の深部へと入り込んできたことを実感する。

歩き始めてから 1 時間少々で小花ノ江河に到着。突如として現れた湿原は、時期の問題もあってか目立った草木がなく、泥炭地のような風采を呈していたが、それでも驚きをもって感じ入った。

ここから木道を歩いて 10 分ほどで花ノ江河に到着。こちらの方が広々としていた。



しばし休憩し、黒味岳を経由しながら宮之浦岳を目指す。途中の分岐点で荷物をデポして、所々にロープのある登山道を歩く。いつしか樹林帯を抜けて、眼下には屋久島の山並を一望しながら、気持ちよく黒味岳へ。

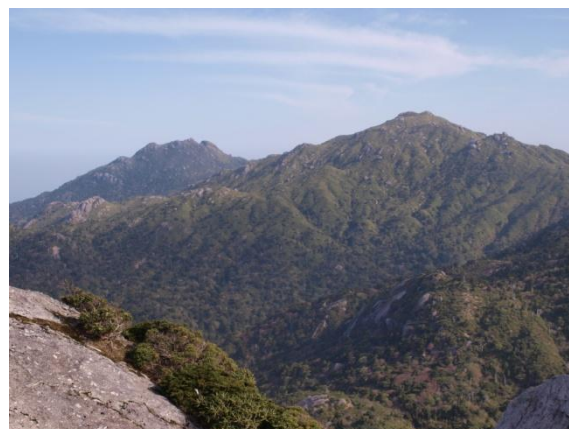
山頂からは 360 度の展望が広がり、花ノ江河や高盤岳、そしてこれから訪れる宮之浦岳や永田岳の山容を一望することが出来て、感慨深いものがあった。天気にも恵まれたことを感謝して、いつまでも眺めていたい思いを抑



えつつ下山する。



(花ノ江河と高盤岳)



(永田岳と宮之浦岳)



下山後荷物を回収して再び歩みを進める。投石平で少々休憩を挟んだころにはいつしか樹林帯を抜け、所々沢を渡り、ロープの設置された登山道を進む。投石岳や安房岳、翁岳など小ピークを右手に眺めながら心地よく、笹藪の中に作られた登山道を歩く。

この日は好天に恵まれたが、その分日差しは強かったようで、日除け帽子の効果を実感する。

翁岳を少し過ぎた辺りで、「宮之浦岳方面最後の水場」と銘打たれた水場で水を補給する。



ここから登りが少々きつくなり、栗生岳が宮之浦岳の山頂と少し紛らわしかったが、最後の宮之浦岳への登りを乗り越えて、山頂に至る。

山頂からもまた素晴らしい展望が広がっていた。

昼食を採り、写真を撮りつつしばしの間休憩を取る。



上：永田岳の存在感は圧倒的。

左：翁岳・安房岳方面を眺める。

左下：これから目指す新高塚小屋方面。

下：恒例の山頂での記念写真。



宮之浦岳を下山して、今度は永田岳を目指す。途中の焼野三叉路付近には荷物を置けそうな広場があったので、ここに荷物を置いて永田岳を往復する。宮之浦岳の山頂を越えると、日帰りのアプローチが難しくなるせいか、登山道も少し荒れているような印象があったが、要所要所には梯子やロープは設置されていたので、安心して通行することが出来た。

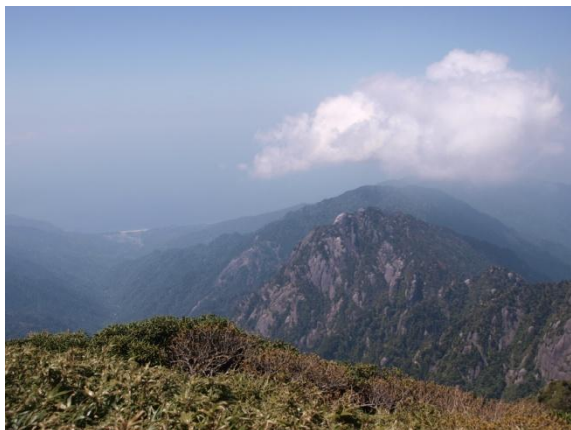


小一時間ほどで永田岳の山頂に到着。ここからの眺望もまた素晴らしかった。

左：宮之浦岳の山容を眺める

左下：障子岳の独特の花崗岩質の山塊、そして遥か遠くに永田の集落を見る。

右：山頂付近の登山道。花崗岩の岩塊が圧倒的な存在感を放っている。



再び来た道を折り返して、焼野三叉路で荷物を回収。既に出発から 9 時間近く経過しており、疲労も溜まって来ているので、ペースを落として歩く。

平石岩屋を過ぎた辺りから再び樹林帯の中に入る。全般としては平坦な道のりではあったが、所々に急勾配を下る箇所があった。

第二展望台からは翌日下ることになる安房川北沢の谷間と、それを囲む山々を眺めることが出来て、今日 1 日で随分距離を歩いたことを実感した。

ここから展望の全くない(のか入口を見落としのか)第一展望台を抜けて、1 時間ほどで新高塚小屋に到着した。ここも既にテント場は大賑わいであったが、やはり小屋の外れの辺りに空いていたスペースを見つけることが出来た。小屋の収容人数は 30 人ほどかと思われたが、スペースはまだ余裕があるようだった。

テントを張り、夕食を食べて就寝。食材の紙パッケージをヤクシカが漁りに来て 2 度ほど追い返すことになったのは反省である。ちなみにここの水は要煮沸である。



<3 日目>

朝の 4 時に起床。朝食などを済ませて 6 時前に出発。

予報では雨予報であったが、この時点ではまだ薄日が差すほどの天候であったので少し安心し、山を下る。

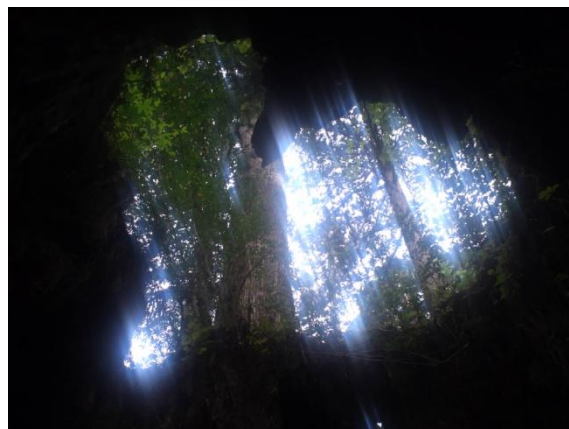
1 時間ほどで高塚小屋に到着。ここから数分歩くと縄文杉に到着。本当に縄文時代からの杉なのかは諸説あるようだが、その巨木としての存在感や、天にまで届かんばかりに張り巡らされた幹は圧巻であった。世界遺産登録と同時に多くの観光客が押し寄せるようになり、現在は展望デッキからしか眺めることが出来ないのは残念である。



左：大王杉 右上：縄文杉
下：夫婦杉 右下：記念撮影



左：ウィルソン株と岡本さん
下：中から上手く天井を覗くとハートマークが。
右：2010 年に倒壊した翁杉。





ここから大株歩道入口まで一気に高度を下げるため、急勾配が続く。前頁の写真に挙げたような夫婦杉や大王杉、ウィルソン株や倒壊した翁杉など、数々の巨木が散見される。ウィルソン株の前後から、縄文杉日帰り見学に来たと思われる、数多くの軽装の登山客とすれ違うようになる。

行き違い待ちなどで多少ペースが落ちるが、9 時過ぎには大株歩道入口に到着。私は行かなかったが水洗トイレがあるようで、「久々に文明を感じた」とのこと。

しばしの休息のあと、トロッコの軌道沿いに歩く。今でも現役とのことで、稼働中の姿が気になるが、全て荒川登山口付近に留置されているようで、車両を見かけることは出来なかった。

沢の音を聞きながら小一時間、思った以上に地味であった楠川分かれに到着。

しばし休息をとり、辻峠を越えて白谷雲水峽を目指す。峠付近は思いの外勾配が強く、またこの付近から雨が降り始めた。



1 時間ほどで辻峠に到着。ここから折角なので太鼓岩を岡本さんと私とで往復することにする。軽装であれば片道 10 分弱の道のりであったが、眼下に新緑に溢れた森が広がっており、また安房川南沢の眺めも壮観であった。

樹林帯の中の道を下り、残りのメンバーと合流して再び下山を開始する。雨脚が強くなってきたのでここでザックカバーを付ける。しかし鬱蒼とした厚い樹林のお蔭で殆ど濡れることはないのが、屋久島の原生林の深さを実感させられる。



白谷山荘までの道は白谷雲水峽からの日帰り登山客も時折訪れるようで、太鼓岩からの眺めを聞かれたりした。思いの外足元が悪く、重い荷物を背負った身では少々時間が掛かってしまった。

白谷山荘を過ぎた辺りではくぐり杉を抜け、散策路と称された登山道を歩くが、期待していたほど楽な道ではなく少し残念であった。

途中で休憩を1度挟み、最後につり橋を渡った辺りから散策路らしい雰囲気道を少々歩いて、最終目的地の白谷雲水峡に無事に到着することが出来た。



バスの出発時刻まで1時間以上あると思っていたのだが、GW中ということで増便のバスがあり、20分ほど待っただけで乗車することが出来た。ただし寿司詰め状態で、たいそう窮屈ではあったのだが。

下山後は宮之浦でレンタカーを借り、尾之間温泉に入浴した後に民宿で1泊。翌日島を1周し、昼過ぎのフェリーで屋久島を後にしました。



(余談)

①ドライフルーツ

今回長期の縦走に備えてビタミンと食物繊維の不足を懸念した荒川がパイナップルのドライフルーツ持参。

休憩の度にメンバー全員に配っていたので、いつの間にか「餌付け」と称される羽目に。写真は安房でバス待ちの間に記念撮影したもの。



②ヤクシカ

新高塚小屋では水場付近にヤクシカが佇んでいたそうです。カメラを構えてもご覧の通り動じなかったようで非常にかわいらしいお姿ですが、後に食べ物の紙のごみを漁られました。次に会ったときには許しません。



③屋久島めぐり

下山後は、予定通り予備日が1日余ったので、宮之浦の観光案内所で宿とレンタカーを斡旋してもらったのですが、唯一空きがあった車はトヨタのCARINA。調べたところ、2001年に販売終了のモデルだそうで、現在早々お目にかかる代物では御座いません。個人経営のレンタカー屋ならではの貴重な経験が出来ました。

しかしブレーキの遊びが大きくて最初はこの車大丈夫かと本気で心配しました・・・



④おじさん

2日目の花ノ江河から最終日鹿児島島に向かうフェリーまで、付かず離れず何度か姿を見たおじさん。単独行らしく、道中何度も声を掛けられ、花ノ江河の成り立ちに始まり、焼酎の上手いスーパーからお勧めの温泉まで、屋久島に関する蘊蓄を披露された。年に1回程度屋久島を訪問されているとのこと。今回は尾之間から入山し、淀川小屋・鹿之沢小屋を経由して永田に下山したようで、その後島をバスで半周して尾之間的温泉に入りに来られたのだとか。

お写真をお撮りするのを忘れたのが残念です。

以上。

画像は
ありません